

研究計画概要

助成年度・種別	2016年度 若手研究助成
研究者	入山 茂
所 属	東洋大学大学院
研究テーマ	捜査関係者と一般市民による死因の帰属特徴—日本方式の心理学的検死の開発に向けて
研究計画概要	<p>【研究の意義】 日本では、1998年以降21件の他殺見逃し事例が発生している。欧米では、故人と関係のあった人(以下、情報提供者)から故人の心理情報を収集し、死亡直前の心理状態を再構成する手法である心理学的検死が開発されており、捜査関係者に自殺に関する行動科学的な情報の収集を促進させ、自殺に対する先入観を抑制させる点で機能している。欧米では心理学者が使用するが、日本では情報提供者への法的な調査が可能な検視官および司法警察員が一定のガイドラインに基づいて実施する方法が有効であり、本研究では、日本方式の開発に向けて基礎的な知見を提供する点に意義があると考えます。</p> <p>【研究の目的】 心理学的検死の実施者の候補である検視官および司法警察員などの捜査関係者、情報提供者となり得る一般市民が、変死の原因をどのような故人の心理情報に帰属するか実証することを目的とする。</p> <p>【研究の計画】 対象：現職の司法警察員への調査が困難であるため、元司法警察員200名、会社員200名を対象とする。 方法：インターネットを経由した質問紙調査を実施する。 質問紙：変死した故人の心理情報に関わる40項目程度の質問を作成する。</p>
選考委員からのコメント	本研究は、一般的には認知度の低い「心理学的検視」について、基礎的な調査による実証研究である。「日本方式」を構築したいという意欲的な研究でありその研究成果に期待が持てる。